

## 柏崎刈羽原子力発電所にかかわる調査特別委員会中間報告

昭和44年（1969年）に柏崎市議会が原子力発電所の誘致を決議してから50年の節目の年となった令和元年（2019年）の9月5日、原子力施設の安全性を確保し、議会として市民への説明責任を果たすとともに、持続可能なまちづくりに役立てる（資する）ため、本特別委員会の設置を全会一致で決議いたしました。

本特別委員会は、正副議長を除く24人を定数とした上で、柏崎刈羽原子力発電所にかかわる次の8つの事項、つまり、

- 1 国・原子力規制庁・県・事業者の動向、検討内容、審査結果について
- 2 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について
- 3 実効性ある避難計画について
- 4 原発と地域経済、今後の行財政とまちづくりにについて
- 5 放射線への正しい理解と対応について
- 6 原子力発電所の廃止措置（廃炉）にかかわる諸課題について
- 7 使用済み核燃料にかかわる諸課題について
- 8 その他柏崎刈羽原子力発電所に付随する課題

以上の調査・研究を行うことを目的としました。

また、その遂行に当たっては、第一部会、第二部会、及び第三部会の3つの部会を編成し、先述の8つの事項を分担して、効率的・機動的に取り組むこととし、これまでの間、各部会において真剣かつ熱心に活動を展開してまいりました。

本特別委員会の設置からこれまでの2年余りを振り返りますと、様々なことがありました。

柏崎刈羽原子力発電所においては、昨年10月に原子力規制委員会が7号機の設計及び工事計画と保安規定の変更をそれぞれ認可し、本年1月13日には、東京電力ホールディングス株式会社が7号機の新規制基準に基づく安全対策工事の完了を発表しました。しかしその後、1月27日に、7号機の安全対策工事が未完了だったことを同社が発表。さらに、同発電所におけるIDカード

の不正使用や核物質防護設備の機能の一部喪失といった事案も相次いで判明し、4月14日に原子力規制委員会が同社に対し核燃料の移動を禁止する是正措置命令を発出する事態となりました。本委員会では、東京電力ホールディングス株式会社が原子力規制委員会に提出した調査結果について同社から直接説明を受けるため、議会全員協議会の開催を議長に要請するに至りました。

また、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大は、本委員会や各部会の活動にも大きな影響を及ぼすこととなりました。令和2(2020)年度に感染防止のため規模を縮小して開催された第12回全国原子力発電所立地議会サミットにおいては、事前に各部会がテーマに基づいて議論し、取りまとめた意見をサミットに提出するという重要な役割を担いました。一方、今年度予定していた視察の見送りはじめ、各部会においても様々な場面で活動が制限されるなど、調査研究が思うように進まなかった部分もありました。

そして、設置から本委員会の活動を引っ張ってこられた斎木裕司前委員長が本年8月に急逝されたことは、私たちにとって非常に大きな損失でありました。これに伴い、本委員会では、10月8日から副議長を委員に加えた新たな体制をスタートさせております。

皆様のお手元には、これまで2年間の本委員会及び各部会の活動経過と内容、加えて、今後の進め方・課題等を記載した報告書を配付いたしました。詳細はそちらに譲らせていただき、あわせて報告いたします。

今後、エネルギーを取り巻く環境は、大きく変化していきます。原子力発電についても、これまで以上に様々な視点でクローズアップされていくものと考えます。そうした中で、議会として市民への説明責任を果たすためにも、本特別委員会の活動がますます重要となってまいります。故斎木前委員長の遺志を受け継ぎ、本特別委員会の目的達成に向けて、委員長として全力で取り組んでまいりたいと思います。

議員各位のより一層の御理解、御協力をお願い申し上げながら、以上をもちまして、柏崎刈羽原子力発電所にかかわる調査特別委員会の中間報告といたします。

令和3（2021）年12月21日

柏崎刈羽原子力発電所にかかわる調査特別委員会  
中間報告書

1 期 間 令和元年（2019年）9月5日から  
令和3年（2021年）12月6日まで

2 委員定数 24人（議長を除く）

3 活動状況

（1）特別委員会の開催

回数	日 程	内 容
1	令和元年（2019年） 9月 5日（木）	・ 正副委員長の互選 .
2	11月20日（水）	・ 各部会の取組について ・ 今後の予定について ほか
3	令和3年（2021年） 8月 2日（月）	・ 各部会の取組状況について ・ 今後の予定について ほか
4	10月 7日（木）	・ 行政視察の見送りと研修会の開催について ・ 今後の予定について ほか
5	10月 8日（金）	・ 委員長の互選
6	12月 6日（月）	・ 中間報告（案）について

（2）議員研修会

ア 令和元年（2019年）12月20日（金）

講師：柏崎市長 櫻井 雅浩 氏

演題：「柏崎市議会が原子力発電所誘致から50年の歩み」

「全国原子力発電所立地市町村議会議長会・議会サミットの歩み」

イ 令和3年（2021年）10月27日（水）

講師：経済産業省大臣官房エネルギー・地域政策統括調整官 佐々木 雅人 氏

演題：「政府が進めるエネルギー政策について」

以 上

## 中間報告書

1 期 間 令和元（2019）年9月5日から令和3（2021）年12月6日まで

2 構成メンバー

部会長	山本 博文	副部会長	秋間 一英
部会委員	村田 幸多朗	重野 正毅	阿部 基
	荒城 彦一	若井 恵子	春川 敏浩

3 担当テーマ

- （1）国・原子力規制庁・県・事業者の動向、検討内容、審査結果について
- （2）使用済み核燃料にかかわる諸課題について

4 活動状況

会議開催日	種別	協議事項
令和元（2019）年9月 5日	第1回部会	・正副部会長の互選
10月15日	第2回部会	・今後の活動について
12月26日	第3回部会	・各テーマの進め方
12月27日	新潟県検証委員会傍聴	・健康と生活に関する分科会
令和2（2020）年1月20日	新潟県検証委員会傍聴	・健康と生活に関する分科会
1月31日	新潟県技術委員会傍聴	・技術委員会
2月 4日	新潟県検証委員会傍聴	・避難方法に関する検証委員会
7月15日	第4回部会	・勉強会
9月24日	第5回部会	・原発サミットの質問等
10月 8日	第6回部会	・原発サミットの質問等
10月29日	第7回部会	・勉強会
12月22日	第8回部会	・原発サミットのテーマ
令和3（2021）年1月25日	第9回部会	・勉強会
7月30日	第10回部会	・今後の調査研究テーマ
11月29日	第11回部会	・中間報告(案)について

5. 課題の進捗状況・議論の結果等

令和元（2019）年9月5日の1回目から令和3（2021）年11月29日まで計1

1回、部会を開催した。まず、テーマ(1)国・原子力規制庁・県・事業者の動向、検討内容、審査結果については、令和2(2020)年1月20日、1月31日、2月4日に県庁や自治会館で行われた新潟県の「3つの検証委員会」の傍聴を行った。また、入手した資料を基に、部会員が各自で勉強し、内容の共有化を図った。

次に、テーマ(2)使用済み核燃料にかかわる諸課題については、使用済み核燃料の処分方法、一時保管施設の現状把握、乾式貯蔵などの処分に関する法令のほか、再処理工場の認可状況、再生可能エネルギーについても資料を基に勉強会を開催した。また、柏崎刈羽原子力発電所に付随する課題についても勉強会を開催した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、全体会も含め視察が実施できなかったため、全体会として令和3(2021)10月27日に研修会を実施した。

## 6. 今後の進め方・課題

(1) 以下の項目について部会を開催し、継続的に調査研究するとともに傍聴等を行う。

- ・新潟県の「3つの検証委員会」の状況（最近の動向と今後の取組など）について
- ・原子力規制庁、規制委員会の対応について

(2) 全体会も含め、福島第一原子力発電所等の視察を実施する。

以 上

令和3（2021）年12月21日  
柏崎刈羽原子力発電所にかかわる調査特別委員会  
第二部会

中間報告書

1 期 間 令和元（2019）年9月5日から令和3（2021）年12月6日まで

2 構成メンバー

部会長	持田 繁義	副部会長	白川 正志	
部会員	布施 学		星野 幸彦	近藤由香里
	佐藤 正典		柄沢 均	星野 正仁

3 担当テーマ

- (1) 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について
- (2) 実効性ある避難計画について
- (3) 放射線への正しい理解と対応について

4 活動状況

会議開催日	種 別	協議事項
令和元（2019）年 9月 5日	第1回部会	・正副部会長の互選
10月15日	第2回部会	・今後の調査・研究方針について ・次年度の活動について
12月16日	第3回部会	・今後のスケジュールについて ・放射線への正しい理解と対応について ・新潟県原子力防災訓練のまとめについて
令和2（2020）年 1月16日	第4回部会	・柏崎原子力広報センター視察について ・新潟県原子力災害訓練のまとめについて
1月22日	視察	・柏崎原子力広報センター視察
2月19日	第5回部会	・柏崎原子力広報センター視察の振り返り ・今後の予定について
5月22日	第6回部会	・放射線授業及び放射線教育研修会の視察について ・今後の予定について
7月 1日	第7回部会	・令和元年度新潟県原子力防災訓練の実施結果について（担当課の説明及び意見交換）
7月28日	第8回部会	・令和元年度原子力防災訓練の実施結果から見える課題について
10月12日	第9回部会	・第12回全国原子力発電所立地議会サミットの対

		応について
11月27日	第10回部会	・令和2年度新潟県原子力防災訓練の参観結果について ・第12回全国原子力発電所立地議会サミットの対応について
12月18日	第11回部会	・第12回全国原子力発電所立地議会サミットに向けた意見交換
令和3（2021）年 7月27日	第12回部会	・中間報告に向けた方向性について ・今後の第二部会の進め方について
11月8日	第13回部会	・令和3年度新潟県原子力防災訓練（11月13日（土）実施予定）について
11月29日	第14回部会	・令和3年度新潟県原子力防災訓練の振り返りについて ・中間報告（案）について

## 5 課題の進捗状況・議論の結果等

### (1) 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について

これまで協議、検討はされていない。

### (2) 実効性ある避難計画について

実効性ある避難計画について協議、議論を深めるために、令和元（2019）年度及び令和2（2020）年度に開催された、新潟県原子力防災訓練を部会員で分担して視察した。

令和元（2019）年度における訓練の実施結果について、防災・原子力課から報告を受け質疑、議論を行った。その後、参観した部会員の所感を基に意見交換する中で、共通の意見とともに課題を見出すことができた。

例えば、今後の原子力防災訓練の具体的な取組について、①「避難計画の各過程に対する理解促進が必要ではないか」、②「訓練を通して抽出された課題の改善策を、住民主体の取り組み、住民が自ら考え提案する機会を設けることも必要ではないか」、③「これまで以上に国・県が主導的に訓練を重ねるとともに、関係する周辺自治体（30キロ圏内及び避難先）との連携強化が必要である」、④「この間の訓練を通じて得た、直ちに改善・対応すべき事項の訓練と分析的評価が必要」、⑤「立地地域だからこそできる『工夫』や試行錯誤の積み重ねから訓練の進化を通じ、実効性ある防災計画策定につながる」、⑥「さらに、コロナ禍のなか「三密対策」との整合性を持った防災計画が必要」などである。

令和2（2020）年度の訓練では、新たにコロナ禍における訓練が加わった。参観した部会員の所感を踏まえ、見えてきた課題などについて意見交換を行った。（詳細は第10回概要の別紙を参照されたい）

部会員の共通認識として、訓練の狙いを当局と事前に共有した上で視察すること。地

域や避難経路の被害状況など、非常事態に近い想定で訓練すべきであり、老若男女など幅広い住民が参加することを通じて検証を積み上げる必要があるなどである。

さらに、令和3（2021）年度の訓練においては、小学校児童の引渡し訓練（11月8日）、避難困難者の搬送訓練、船による避難・船舶乗船訓練、スクリーニング訓練（以上、11月13日）に絞って視察した。

部会員の所感を列挙すると以下のとおりである。

- ・児童引渡し訓練を初めて行ったが、ヨウ素剤の配布も同時に行った方がよかったのではないか。
  - ・複合災害で様々な被害が想定され、職場から学校まで移動が間に合うのか。
  - ・学校の校門が狭く自家用車避難の困難で、学校環境は地域差がある。
  - ・避難困難者（要支援者）の搬送者数も増やし検証を積み上げるべきだ。
  - ・船舶乗船訓練は沖合の波の状況で中止したが、新たな選択肢が必要。
  - ・海岸からの乗船は難しい。船が港に着岸していなければ安全な乗船は無理。
  - ・スクリーニング訓練では、要配慮者（車いす）に相当な時間を要している。また、冬季（豪雪地域）の対策、汚染物質の管理はどうするのか見えない。
  - ・訓練参加者を段階的に引き上げ、実効性ある避難訓練にする必要がある。
- などを挙げるができる。

### （3）放射線への正しい理解と対応について

令和2（2020）年1月22日、柏崎原子力広報センターにおいて、小中学校における放射線の教育実習について研修を受けた後、意見交換を行った。

部会員の受け止めはおおむね良好と判断した。

なお、教員向け放射線教育研修会の視察については、新型コロナウイルス感染症の影響で視察することができていない。

### （4）第12回全国原子力発電所議会サミットに向けた意見交換

第12回「議会サミット」に示された意見交換テーマに沿って、（1）コロナ禍における避難（感染症対策を含む）、（2）避難道路の整備、（3）住民避難訓練の在り方の3つに絞り意見交換するとともに、質問項目をまとめた。

## 6 今後の取組について

### （1）柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について

今後も、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策を注視していきたい。

### （2）実効性ある避難計画について

原子力発電所が立地する自治体や国関係機関との意見交換、研修会・視察の実施を検討したい。

### （3）放射線への正しい理解と対応について

放射線教育において先行している自治体の調査や意見交換、教育現場の実態調査などを実施する必要がある。

以上



令和3（2021）年12月21日  
柏崎刈羽原子力発電所にかかわる調査特別委員会  
第三部会

中間報告書

1 期間 令和元（2019）年9月5日から令和3（2021）年12月6日まで

2 構成メンバー

部会長 相澤 宗一 副部会長 田邊 優香  
委員 笠原 晴彦 三宮 直人 樋口 良子 飯塚 寿之  
佐藤 和典 上森 茜

3 担当テーマ

- (1) 原発と地域経済、今後の行財政とまちづくりについて
- (2) 原子力発電所の廃止措置（廃炉）にかかわる諸課題について
- (3) その他柏崎刈羽原子力発電所に付随する課題

4 活動状況

会議開催日	種別	協議事項
令和元（2019）年9月5日	第1回部会	・正副部会長の互選
10月15日	第2回部会	・今後の調査・研究方針について ・次年度の活用について
12月26日	第3回部会	・各テーマの進め方について ・今後のスケジュールについて
令和2（2020）年1月24日	第4回部会	・電源財源の構造 電源交付金制度について 柏崎市の現状について （講師；柏崎市議会議長 真貝維義様）
2月6日	第5回部会	・地域エネルギービジョンについて
7月28日	第6回部会	・廃止措置について
8月5日	第7回部会	・地域エネルギービジョンについて
10月8日	第8回部会	・第12回全国原子力発電所立地議会サミット「国 に対する質問」について
12月22日	第9回部会	・第12回全国原子力発電所立地議会サミット意 見交換テーマ「立地地域の振興について」に関し ての意見交換について

令和3年(2021)年7月26日	第10回部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告について</li> <li>・研修会について</li> <li>・レポート(エネルギービジョン)の取り扱いについて</li> </ul>
11月29日	第11回部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告(案)について</li> </ul>

## 5 課題の進捗状況・議論の結果等

### ○ 第三部会の検討事項及び実施項目について

当部会のテーマは、「原発と地域経済、今後の行財政とまちづくり」、「原子力発電所の廃止措置(廃炉)に関わる諸課題」である。テーマに付随した現状認識として

- ・ 柏崎市の将来像「エネルギーのまち柏崎3.0」の創造に向けた動きにある。
- ・ 地域経済やまちづくり等には先立つモノ(財政)が必要である。
- ・ 柏崎市にとって初めてとなる廃炉への関わりも視野に入れている状況にある。

等、これらを踏まえて当部会では基礎的な知識を習得するべく以下3点について自己学習を計画・実施した。

#### ア 「電源財源の構造」

電源交付金制度及び柏崎市の現状(原子力発電所関連財源)について、真貝議長を講師に学習した。

#### イ 「地域エネルギービジョン」

主要な位置付けにある柏崎市地域エネルギービジョンにおける原子力の位置付けを理解するため、読み合わせ、意見交換を行い、レポートの作成をした。

#### ウ 「廃止措置」

廃止措置について、電気事業連合会発行の「原子力発電所の廃止措置：2020年2月版」を活用し、学習した。

「第12回全国原子力発電所立地議会サミット」について本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各地域の議長・副議長のみオンラインでサミットを行った。その際「国に対する質問書」を提出した。第三部会においては

①【立地地域への支援策(経済、人、施策)】

②【廃炉と地域振興】

について意見を集約し、提出をした。

## 6 今後の進め方・課題等について

(1) 柏崎刈羽原子力発電所の現状を見つめ、以下の2点について研究を進める。

- ・ 事業者の収支見通しと、柏崎市の行財政との関わりについて

- ・ 令和2年度に改定された使用済核燃料税条例について、条例が機能するためには等の研究
- (2) 廃止措置が確定した福島第二原子力発電所の準備状況(発電所、行政それぞれの対応)について学習を進めていく。

以 上